

# コロナ禍における観光・レジャーの在り方を探る —継続的な観光振興の実現に向けて—



三重大学教育学部・講師

磯野 巧 Isono, Takumi

[URL] <https://www.isonotakumi-aussie.com/>

## 旅行市場をめぐる近年の動向

日本は本格的な人口減少社会を迎え、国内の旅行市場は縮小傾向を辿りつつあります。このような状況下、観光振興におけるインバウンド需要の取り込みが重要課題となり、全国各地でその受入環境の整備が進んできました。私は専門とする観光地理学の立場から、インバウンド需要獲得に向けた様々な観光地の対応やそれによる経済的・社会的影響を検証し、高度化・複雑化するインバウンド市場の現状把握や課題整理、将来予測を試みてきました。



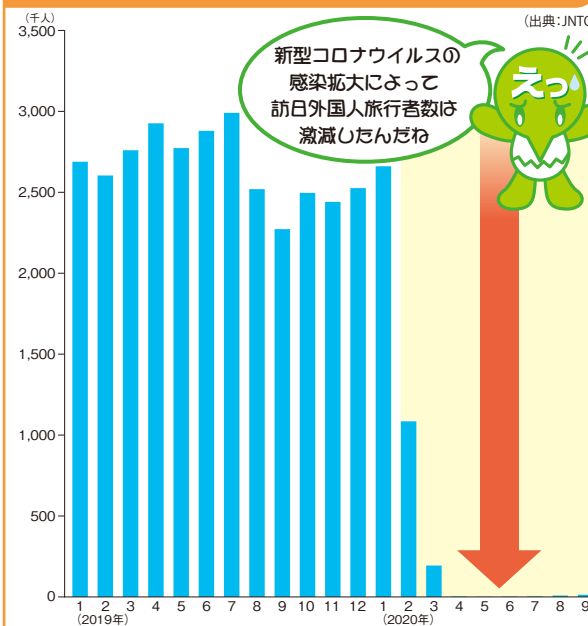
## 安全性を重視した観光・レジャー

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大によって、インバウンド市場は壊滅的な打撃を受けました。国際観光は「一旦休止」の状況に陥り、国内旅行にも自粛ムードが広がりました。一方で、コロナ禍においても安全に楽しめる観光やレジャーの在り方も模索されています。なかでも、感染リスクが低く屋外で気軽に非日常を楽しめる「アウトドア・レジャー（登山やキャンプなど）」は大きな注目を集めています。例えば、自然の中に作られたフィールドアスレチックでは、マスクを着用してソーシャルディスタンスを確保しつつレジャー活動を楽しむ観光客が散見されつつあります。



マスクを着用しながらフィールドアスレチックを楽しむ観光客（岐阜県郡上市）

## 訪日外客数の推移（2019年1月～2020年9月）



## アフターコロナを見据えて

日本の国土は南北に長く、また高低差が激しかったり急流が多かったりするため、アウトドア・レジャーを楽しめる環境が各地に存在します。そのため、アウトドア・レジャーはかねてからインバウンド・ツーリズムの有望なコンテンツとして期待されていました。コロナ禍の収束がみえない状況にはありますが、今後の観光の在り方を議論する上で、私はアウトドア・レジャーがひとつ重要なカギになると考えています。ただし、その「楽しみ方」は一層多様化・複雑化すると思われます。ウィズコロナ、そしてアフターコロナの観光・レジャーはどう在るべきなのか、継続的な観光振興を実現するためには何をすべきなのか、潜在性の高いアウトドア・レジャーを題材としつつ、地理学の強みであるフィールドワークを通して探っていきます。

## カギはアウトドア・レジャー

この写真のように、アウトドア・レジャーを楽しめる多くの地域ではインバウンド需要が高まっていた。



外国人スキーヤーをターゲットとしたサービスを展開している施設（北海道ニセコ町）

近年ではキャンプ場での楽しみ方が多様化しており、静かな空間で「何もしない」のも魅力的な楽しみ方となっている。こうした楽しみ方は、自ずと三密回避につながるため、コロナ禍において注目を集める可能性がある。



ハンモックで寛ぐキャンパーの様子（三重県津市）

## ウィズコロナ アフターコロナ

最近ではアウトドア・レジャーと地域創生との関係性も注目されているんだよ

